

高段者審査会

居合術七段受験

無双直伝英信流 至誠館道場 平 松男

武徳殿の門をくぐると、たった今審査員講習会会議を終えた藤井師範が何やら慌てふためいて駆け寄って来た。

藤井師範の話によると、今回から昇段検定の審査方法がガラリと変わるという。

しかし「我々は、普段の稽古のとおりやれば、きつといい結果が生まれる」とハッパをかけられた。

「七段」ともいうと技はできて当たり前、あとは品格、所作礼儀、残心など、人間として自然に身に付いたものがあらわれると言う。

正装に着替え、気を引き締め、旧武徳殿に向かう。途中柔術の審査員としてこられた竹田先生から、「平さん、去年だったら良かったのに、今年から難しいぞ」とプレッシャーをかけられる。

注意事項、審査方法、採点方法の説明があり、いよいよ、五人の先生方の前で演武が始まる。さあ次は、自分の番だ、久しぶりに味わうこの瞬間、胸はドキドキ、心臓バクバク、頭真っ白。

段位、姓名を名乗った。あとは、演武。無心に日ごろの稽古の発表を味わうつもりで、剣を振る、所作は、出来たか、残心は、一つ一つ注意しながら演武が終了、ホッ。

先生方が審査員席で集まり、何やら話し合い、集計・・・静かに時は、流れた。

いよいよ濱田先生による可否の発表。「合格」の一声、「よかった」。藤井先生に感謝、審査員の先生方に感謝、特に岡崎先生から過大な褒めの言葉をいただき、誠に有難うございました。

特に本年度七段合格者は、私一人、と言うことは、日本で一人、それは、世界で一人。

それゆえ推薦してくださった先生方の恩に報いる為、また、武徳会の名譽に恥じぬよう、そして日本の文化を守る為、稽古もう一つ稽古し、後輩への伝達、育成に精進する覚悟です。

高段者審査会に臨んで

(特法) 日本武道空手協会

安部俊伯宗藝

福岡県古賀市在住

平成二十六年四月二十八日、伝統ある第五十二回全国武徳祭・高段者審査会にて、空手道六段及び練士を受審し、合格させて頂きましたことにつきまして、ご推薦頂きました道観世宗慶先生を始め、関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。